



「わたしたちは、どこから来て  
どこへ帰るのでしょうか。」

慈光照護のもと、門信徒のみなさまにはますますご清栄のことと慶賀に存じます。

みなさんはラジオドラマを聴かれたことがありますか?ご年配の方ですと、まだテレビがなかった時代、『君の名は』をはじめとするラジオドラマ全盛の時代をご存知かと思えますが、「生まれたときから家にテレビがある。」という世代の皆さんは「ラジオドラマ?何それ?」という方も多いのではないのでしょうか。実は今でも毎週土曜日の午後10時からNHK-FMでラジオドラマをやっています。私(若院)は大好きでいつも聴いています。

先週12月1日のドラマは『父の帰宅』というお話で、8年前に亡くなったお父さんが突然家に帰ってくるという話でした。家族はみんな驚きながらも喜び、語り合います。その家の娘さん(主人公)がつぶやきます。「お父さんは死んでからどこにいたの?」彼

女はお父さんはお仏壇の中にいたと思っていたのです。誰もがそのことを聞けないまま、お父さんは5日ほどでまた家を出ていかれました。そして彼女は、お父さんを失うことはもつと何か大きなものも同時に失うことであったと気づかされるのです。自分が何もしなくても、そのままただ愛されていた私であったということ。

私たちは、たった数十年という時間でこの娑婆世界を終えていかねばなりません。その先にはなにもないのでしょうか。人間死んだら終わりなのでしょうか。お浄土など夢物語なのでしょうか。そう思っていたなら不安でたまらないでしょう。できるだけ死を意識から遠ざけ、考えないようにするかありません。

私たちお念仏のみ教えをいただく者はそうではありません。親鸞聖人のお書きになつたご和讃のなかにこのようなものがあります。

生死の苦海ほとりなし

ひさしくしずめるわれらをば

弥陀弘誓のふねのみぞ

のせてかならずわたしける

(高僧和讃『浄土真宗聖典註釈版』五七九頁)

聖人は、煩惱によつて迷いの世界に沈んでいる私たち凡夫を、阿弥陀仏のご本願こそが誰一人としてもらさずに救いとつて覚りの

彼岸に至らせることを船にたとえていらつしゃいます。その働きこそが南無阿弥陀仏の声の仏さまとなつてこの私を目当てに至り届いてくださっているのです。

お父さんに、そのままただ愛されていた私であつたという娘さんの「気づき」はそのままだ、如来様から願われていた私であつたという気づきでもあるのです。私が願うよりも先に、この私を必ず救うぞと誓願をたてられた如来様がおられるということに気づかせただけ、お互いに喜びたいものです。しかも如来様のご本願のお働きはなくなることはありません。南無阿弥陀仏のお念仏は「生死のことは、安心して如来様におまかせします」ということでもあるのです。

「御正忌のご案内」

日	14時〜	19時〜
13日 (木)	大逮夜 正信偈 法話二席	初夜 十二礼 御伝鈔拝読 法話一席

福井市教応寺住職  
本願寺布教使

奥田 順誓師です。

ご法話  
御正忌はその名の通り、宗祖・親鸞聖人が75年前に亡くなられましたが、そのご命日を

ご縁として、聖人の90年のご苦勞を偲び、念仏の教えを明らかにして残してくださいましたことのご恩に感謝する法要であります。

いつも書いていますが、どうかお時間を作っていただいて、一度はお参りください。1年間一度もお寺に参らないということがありませんように。温かい『ぜんざい』もふるまわれます（夜座）。

### 「報恩講が執行されました」



おかげさまで今年も10月16日〜17日に当寺の報恩講がお勤まりになりました。ようこそのお参りでございました。中には3座すべてにお参りくださったご門徒もいらつしやいました。たいへん有り難いことあります。

### 「除夜会のご案内」

毎年恒例になっている除夜会じよやえのご案内です。12月31日午後11時半ごろから、当寺において『除夜の鐘』をつきます。梵鐘ぼんしょうは希望さ

れる皆様には全員ついていたいただけます。新年が明けましてから本堂にて勤行があります。あたたかい飲み物等もふるまわれます。ぜひお参りください。

### 「住職が無事退院しました」

声帯ポリープ切除のため入院しておりました住職が先頃無事に退院しました。長年の教員生活と僧侶生活で喉に負担が多かったでしょう。ただ、まだしばらくの間長時間の読経などは無理のようですので引き続きご迷惑をおかけすることが多いと思います。何とぞご容赦いただきたくと存じます。

### 「食前・食後のことば」

今月の掲示伝道のことばは

「私の中から すべてがごはん

だからごはんに ありがとうございます。

食べてるものは すべてがいのち

だからいのちに いただきます。」

というものです。私たちのからだはすみからすみまで食べたものでできています。だからいかにごはんが大切かということをおためて考えなければなりません。そして、ごはんに食べているものは、植物か動物かは別にしても、すべてが生きものの『生命いのち』をいただいているのだということも決して忘れてはいけません。昨今の賞味期限偽装問題などを見ても、現代人は「まだ食べられ

るものを平気で捨てる」ことが普通になってしまっているようで悲しく思います。世界には飢餓で苦しんでいる人が8億人もいると言われています。他の生きものの生命いのちを奪っておきながら、感謝もせずにゴミとして捨てられ、焼却されれば二酸化炭素を排出する。これでは奪われた生命いのちに対して申し訳ができません。

浄土真宗では食前・食後のことばをさだめています。

・食前「み仏とみなさまのおかげにより

このご馳走をめぐまれました。

深くご恩をよろこび

ありがたくいただきます。」

・食後「尊いお恵みにより

おいしくいただきました。

おかげで、ごちそうさまでした。」

どんなに忙しくても、合掌と「いただきます」

「ごちそうさま」だけは忘れないようにしたいものです。

### 「編集後記」

この寺報を、一緒にお住まいでない子供さんなどにもお読みいただけたらと思っております。「家には3部送って欲しい！」などのご要望があれば喜んで印刷します。若い世代にもお念仏のみ教えを伝えていきましよう。

合掌